

タウンミーティング 会議録

日 時：平成28年11月22日（火） 19：00～20：34

場 所：黒部市国際文化センターコラーレマルチホール

テーマ：「第2次総合振興計画について」

～次の10年を共に考える～

参加者：150名

【事務局】

会場にお集まりの皆様、ご苦労さまです。

ご案内の時刻になりましたので、ただいまから、平成28年度「市長と語ろう！タウンミーティング」を開催いたします。

私は本日の進行を務めさせていただきます、企画政策課の橋本でございます。皆様のご協力を賜り、円滑な進行に努めたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

さて、本日のタウンミーティングのテーマは、「第2次黒部市総合振興計画について」であります。

最初の20分程度で、市長からテーマについてお話しをさせていただきます。会場の皆様は、正面のスクリーンをご覧になりながら、お聞きいただきたいと思います。

説明の後、会場の皆様方から、順次、ご意見やご提言をお受けし、意見交換することとしておりますが、終了時間は、午後8時30分を目処として進めていきたいと考えておりますので、皆様のご協力をお願いいたします。

また、先ほど受付でアンケート用紙をお配りいたしました。今後のタウンミーティングの参考とさせていただくほか、ご発言できなかった皆様からも自由にご意見を書いていただき、市政運営の参考とさせていただきたいと思います。

お帰りの際、受付で回収いたしますので、どんな簡単なことでも結構です。記載いただければありがたく存じます。なお、クリアファイルは本日の参加記念としてお持ち帰りください。

それでは、さっそく始めさせていただきます。

堀内市長から、本日お集まりいただきました皆様へのごあいさつと、テーマに関しての基本的な黒部市の考え方を述べさせていただきます。

市長、よろしくお願いいたします。

【市長】

皆さん、こんばんは。

本日は、何かとご多用の中、また、仕事を終えられ、大変お疲れのところ、このように大勢の皆様がタウンミーティングに参加いただき誠にありがとうございます。せっかくの機会でありますので、本日の討論会が実りのあるものとなるよう積極的なご発言をお願いしたいとおもいます。

さて、今回のテーマは、今後のまちづくりの方向性を示すために策定作業に着手しております「第2次総合振興計画」といたしました。本市では、平成20年度から29年度まで

を計画期間とする第1次総合振興計画を策定し、計画的なまちづくりを推進してまいりました。この第1次総合振興計画が残り1年あまりとなる中で、平成30年度から始まる「第2次黒部市総合振興計画」を策定し、第1次から続く次の10年の黒部市の方向性を示すこととしております。

本日はこの策定にあたり皆さんと活発な意見を交わしてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。それでは、説明に入らせていただきます。

詳細については、別紙をご覧ください。

【事務局】

ただいま、市長からテーマについて提案がございました。

この後会場の皆様から、ご意見やご提言をお受けいたしたいと思っております。市長は中央のお席に移動をお願いいたします。

発言される方は、挙手のうえ、係の者がマイクをお渡ししますので、マイクを受け取られてから、地区名あるいは所属団体とご自身のお名前に続き、ご意見を述べていただきますようお願いいたします。

また、タウンミーティングでは、できるだけたくさんの方からご意見を頂戴したいと考えております。発言は、お1人2分以内で、要点を簡潔にお願いいたします。

それでは意見交換を始めたいと思っておりますが、事前に発言通告を2名の方から受けております。まず、その方々から順次、発言いただきたいと思っております。

【石田・Aさん】

私から市長へ空き家対策についてご質問をさせていただきます。私は数年前から統計調査員をしております。昨年は国勢調査でも調査員をしておりました。現在は県から依頼された労働力調査に従事しております。つい先日、生地地区を調査してましたところ、調査する世帯の14件中5件が空き家でございました。空き家の中には、屋根瓦が落ちてきそうなところがございまして、瓦に注意という看板はありましたけれど、危険を感じました。車で通りすぎるときもヒヤヒヤいたしました。空き家についてはニュース等で全国的に問題だと聞いておりますが、本当に身近な問題と感じました。

そこで市長にお願いいたしますが、数年前から市でも空き家対策をすすめておられると聞いておりますが、なかなか改善されないのが現状であります。さらなる対策の充実をお願いしたいとおもっております。

最後に話は変わりますが、私は日頃から図書館をよく利用しております。先程の市長の説明にもありましたが、旧庁舎跡を利用した図書館を核とした複合施設について、大変期待しております。是非ともよろしくお願いいたします。

【生地・Iさん】

私は地元高校を卒業後、東京の大学に進学いたしまして、昨年14年振りにUターン就職をいたしました。8カ月が過ぎ本当に住みやすいなと実感しております。私から市長にUターン対策について少しお話ししたいとおもいます。

私が親にUターンの意思を伝えたところ、「仕事がないよ」でした。東京で25歳から35歳くらいの富山県出身の女性達にお話しを伺ったところ、みなさん機会があればUターンしたいと言っておられました。でも中々帰ってこられないところを見ると、富山に帰っても仕事がないんじゃないかというイメージを皆さんが持たれているのかなというのが私の感想です。

私は現在、黒部市出身の東京の仲間や地元の仲間と、地元の中高生を対象に、地元にはどんな職業があって、どんなふうに関わる喜びやおもしろさがあるよというようなことを学習する活動の準備を進めております。決まりましたらまた案内いたしますので、是非堀内市長にも来ていただきたいとおもいます。

【市長】

ありがとうございました。まずAさんの空き家について、大変多くの方から要望をいただいておりますし、その対策についてもようやく準備が整ったとおもっております。

市内には1000件程の空き家が確認されており、その中でも特に危険だとおもわれる空き家を「特定空き家」として14件を認定しております。そのうち1件だけ解体をしていただきましたが、それぞれ解体を持ち主をお願いいたしております。さらに相続等の問題でどうしても持ち主が特定できない空き家については、行政代執行しかないのかなと考えております。

また、危険空き家の解体につきましては、1件上限50万円の解体補助もさせていただいております。細かい条件等もありますので、もし興味があるのであれば市へご相談いただければなおもいます。

一方、利用可能な空き家については、「空き家バンク」として登録をさせていただいております。現在7件登録をいただいております。このうち契約が成立したのが2件です。契約が成立した案件については、これにも補助がありまして貸し手・借り手それぞれ10万円を限度としています。

さらに空き家のリフォームが必要な場合、これにつきましてもリフォーム補助を設けておりまして、上限50万円で補助率1/2となっており、これまで1件活用実績がございます。以上のように市でも空き家対策にたいしましていろいろな補助を準備しておりますので、空き家を貸したい、解体したいとおもわれている関係者の方は一度市までご相談ください。

次に生地のIさんの話についてですが、東京の方から見れば地方に仕事がないというのは一般的な話です。しかしながら、黒部市はここずっと有効求人倍率2を超えております。9月に少し下がったんですがそれでも1.98です。正社員の有効求人倍率も1.29です。ですから東京よりも高いです。問題は職種のマッチングです。ご存じのとおりモノづくりの盛んな地域であり、また、建設業でも人手不足ということで雇用の確保に苦労されている業種はたくさんあります。どうしても地元の人たちは仕事がないと言われる方が多いですが、市役所にご相談いただければ、仕事の斡旋はできませんが、情報の提供はできるかとおもいます。

また、今日は中小企業の経営者の方の顔も見えますが、ほとんどの事業所は人手が確保できず、苦労しておられます。余談ですが、どうしても最近の若い人たちはコンピュータ

関係の仕事だったり、事務仕事だったり希望されがちです。一方では、現場のある仕事や営業ではなかなか雇用確保が厳しいのが現状です。有効求人倍率が2ということは仕事を求める人1人に対して2つの仕事があるということになりますから、平均的には非常に高い割合だというふうにおもっていますので、その点具体的に何か連携等ご相談いただければと考えております。特に、県外からこちらにきて就業する方は、非常に歓迎しております。今年からUターンで就業される方に、5万円の補助金を出しておりますし、IターンJターンについても15万円を支援するような制度を設けておりますので是非活用していただければなおもっております。

【Yさん】

気になることがありますので2つ程質問させていただきます。

一つは観光振興についてです。ハードの部分なのですが、黒部市にある地方鉄道のトイレが壊れております。地方鉄道で修繕するのであれば市が補助するとか、市で修繕をするとか何か考えていただきたいとおもいます。何年も放置されております。よろしく願います。

もう一つは、私の大好きな赤塗りの橋があります。ご存じのとおり仏舎利塔とお墓の谷間にあるのですが、理由があって閉鎖されております。本来であれば山や海を眺めたりして喜ばれるものであるはずのものが、負の遺産になっております。これについてどうされるのか市長の考えをお聞かせください。

【市長】

大変気にかけているところをご質問いただきました。トイレ文化は非常に大事なことだとおもっております。具体的に地鉄さんのトイレの話がでましたが、地区からも要望があがっておりますし、順番になんとか改善したいと考えております。特に、たくさんの観光客の方が利用されるトイレにつきましては、なかなか事業所の方に任せていても進まないとおもっております。市と事業所と相談しながら順番に改善していかなければならないかなとおもっております。その点は環境衛生の改善ということで、次期の計画に盛り込んでまいりたいと考えております。

次に宮野の橋の話ですが、本来であれば自由に通行できるのが当然なのですが、何件か事件がありましたので地元のみなさんと相談し、今は封鎖をさせていただいております。これをそろそろという話もありますが、地元のみなさんと協議をして、通行については改めて考えたいとおもいます。本来は橋なので歩いて当然なのですが、いろいろな方向の議論もしましたが、なかなか改善策がなく今の状態であります。また、検討してまいりたいとおもいます。

【Oさん】

最後の資料（協働のまちづくり）についてもう一度説明をお願いします。

【市長】

協働のまちづくりにつきましては、これまでは市民のみなさんやいろいろな団体が行政

に対し、いろんな施策等をお願いして行政がそれを実施するという格好でありました。しかしながら、社会情勢の変化により、行政サービスの役割が非常に増加し、行政の職員の数も減っているのですが、仕事はどんどん増えております。そんな中で、これからはすべてが行政でできるわけではないので、行政とNPO法人あるいは、地元自治振興会やいろいろな団体と連携しながら役割を分担し、お互い対等な立場で、住民が求められているサービスを実施していく、こういう時代が変わってきたということでもあります。そのためには市民参画と協働ということでもありますので、いろいろな計画の策定の段階から参加していただきながら協働で事業を行っていく、そういうふうに考えていただければというふうにおもいます。

【Oさん】

行政というものは税金で賄われているというものとおもっておりますので、なかなか対等とは難しい課題だとは思いますが、人口が減少する中で連携というものは必ず必要になるかとおもいます。困難な道のりだとおもいますが、丁寧に説明いただきありがとうございます。

【Tさん】

数年前、市長になられる前の堀内市長も含め、イギリスのコスイ地方にまちづくりの視察で行ってまいりました。そこで私は、人も街も見られることでドレスアップすることや学んでまいりました。ヨーロッパに行きますと自然の緑に映えるように、家の外壁を白くしたりクリーム色にしたりして、素晴らしい統一感があります。50年、100年かけて美しい街並みを完成させたと学んできました。黒部市でも外壁を白くクリーム色に統一し、ヨーロッパの美しい街並のようにしてはどうかとおもいます。そういう美しい黒部市をつくれれば観光にもなります。できればそのような取り組みをしてはいかがでしょうか。

【三日市・Iさん】

2点市長にお伺いします。

一点目は、農林水産振興について具体的な方策がありましたら説明していただければとおもいます。黒部市のブランド化や、自給自足、担い手の育成そういうものを考慮しながら、計画を決めていかないといけないとおもいます。

二点目は、黒部市の三日市の商店街について、大通りを通ってみますとシャッターがほとんど閉まっております。なにか用事があって出かけてもコーヒー一杯飲む店も見つかりません。なにか専門店の育成など具体的な対応策があればご説明をお願いします。

【市長】

Tさんの話につきましては、15年程前に行ったこととおもいいたしました。ピーターラビットの故郷のようなところで景色も美しく、都会的なものは一切なく、建物も昔の石造りの家が残されていて、スコットランドの原風景が残されている素晴らしいところです。それを習って黒部の住宅の壁の色を統一してはどうかと、昔から高本さんから聞いております。黒部でも一部地域に残っている黒い瓦葺きの家などは、北海道から来た人からは美し

いですねというような声も聞きました。一方で新しい住宅については、いろいろと奇抜な色もあります。そういったものを調整できればいいのですが、景観条例にでもしないかぎりなかなか難しいかなとおもいます。もし景観条例とするのであれば、例えば宇奈月温泉街とかどこかひとつの観光地のエリアなら可能かもしれませんが、市全体ということになればなかなか難しいかなとおもいます。

次にIさんの話について、農林水産業の振興についてまずはブランド化の話をしてみると、今国道8号バイパスの付近、黒部総合運動公園横に「道の駅」の計画をしております。そこに地場産の農産物の直売所や加工所ができればいいなというふうに考えております。それにあたり最も重要なことは、品ぞろえの種類と量が本当に確保できるのか。そのことについて農業団体組織と協議しております。できれば年間を通して並べられるような農産物があればいいのですが、市内ではほとんどが米の生産であり、今の状態では難しいです。どれぐらいの量が必要かという、例えば直売所で年間2億円の売り上げを想定したところ、1日約50万円の売り上げです。200円の大根を売るならば1日2500本の準備が必要になります。これが毎日なければなりません。野菜にはシーズンがありますので、季節が変わればそこに並ぶ野菜も変わるとというのが理想的ですが、それだけの種類と量をどう確保するのかということ、当然、野菜がない時期がございますので、それに代わる加工品の生産に向けた加工品の生産設備も準備しなくてはいけないとおもっております。

また、そこに携わる農家のみなさんがおられなければなりません。今、市ではハウス栽培の支援もしておりますが、「道の駅」が完成するまでの4～5年の間に、野菜の生産や加工等の準備をしっかりしていただければ、加工販売がうまくいくと考えております。最もあってはならないことは、お客さんがそこに行った時に何も物がなかった。地元の物がなく一般食品が並んでおり、そんな期間が1ヶ月も2ヶ月も続くような状態はお客さんに失礼だとおもっております。

そうならないためには、担い手として農業従事者が増えないけません。市も認定農業者にいろいろな支援をしておりますが、徐々には増えておりますが全体的には増えていないのが現状であります。黒部市の第一次産業の従事者は4%かおられず、第二次産業の従事者が48%を占めております。富山県全体としても第二次の就業率が高いのですが、それでも38%程で、黒部市は県平均を10%上回っております。理由はみなさんおわかりかとおもいますが、とにかく第一次産業に従事しとられる方が少ないです。若手が希望を持って農業を続けられるようなさまざまな支援をしていきたいとおもいます。

次に三日市地区の買い物のはなしですが、先程言われたとおりであります。これに対しても空き店舗などで店を開業していただく方への支援もしておりますが、なかなか増えません。なら周りに買い物をするところがないのかということ、三日市、大布施、生地、石田周辺でスーパーと言われるものは7軒あります。大多数のみなさんはそこで買い物をしておられるようですが、まずは地元の方が地元の商店を利用するという考え方を広めていかないと、個人商店というものはなかなか維持できないかとおもいます。ヨーロッパに行くと地元の商店以外はやらせないというような地域もあります。値段は適正価格で決して安売りはせず、地元のみんなでその地域の生活をまわしていくというような取り組みであります。私もあまり買い物に行く訳ではありませんが、なるべく地元の商店を利用するよ

う心掛けていますが、みんながそういう意識を持たないと厳しいのかとおもいます。

【若栗・Tさん】

地域公共交通について、具体的にはバスのことなのですが、先日お客さんに「あいの風」できてくださいと伝えていたのですが、間違って新幹線の駅の方に下りられました。そこから目的地に行くために赤いバス（新幹線市街地線）に乗ったそうです。そこでバス運転手のサービスがすごく悪く、怒鳴りつけられ、あたふたしてやっとなのおもいで目的地に辿り着いたと言われていました。私が思うに観光案内所が少し離れた場所にあるので、新幹線から降りてこられた方がすぐにわかるようにもっと近くに設置して、もっと親切に案内できるように、そういったバスの運転手さん等の指導をしていただきたいです。

また、若栗にも小さい買い物用のバスがきます。2回ほどバスの停車位置に一般の車が間違って停まっていたのですが、それに対しバスの運転手さんがものすごく暴言を吐かれています。そんな言い方はないでしょうと私もおもいましたが、そういった公共交通に携わっておられる運転手さん方にももう少しおもてなしの気持ちを持っていただきたい。すごく気分が悪かったとおもいますお客さんは。そういったことがあったということなので市の方でもそういう方を教育して欲しいとおもいます。

【石田・Nさん】

昨年からは新幹線が開業し、パノラマルートができました。市民アンケートを見ても「自然環境が豊か」が60%ありますが、なかなかみなさん自分自身で体験しておられないのじゃないのかなとおもいます。例えばこの中にパノラマルートに行っておられた方はおられますか・・・《ちらほら挙手》・・・だいぶおられますけどね、全体の1～2%程なんです。

それと大島にパークゴルフ場があります。私もやってみたいなと思うんですが、やはり市民として長く住んでいて良かったなということがあってもいいんじゃないかとおもいます。長年住んでいて横の市町と同じというのはいかがなものかとおもいます。

また、観光に力を入れているのであれば、黒部市の方がどんどん行き宣伝すると、すごいPRになります。せっかくできたのに行っている人が少ないと他所の人はどうなのかとおもいます。やはり直接行って、五感で感じてきてみなさんに伝えれば効果があるとおもいます。

それともう一点2020年問題について、私達市長さんも含めてではないかとおもうのですが、年配の方が生きがいをもって活動できれば、健康でもあるし、環境もよくなるとおもいます。是非、そういう方向に向くような足がかりをお願いします。

【市長】

Tさんからのご指摘について、バスの運転手の教育については改めて徹底をさせていただきますとおもいます。新幹線開業後今現在、バスは7路線あります。かなり充実してきました。しかし、新幹線市街地線、石田三日市循環線等バスが走っていますが、利用者は少ないです。これらのバスは1日の利用者は20～30人程です。それをなんとか増やしたい、増やさなければ維持も難しい。なくなったらまた困る利用者もいらっしゃいます。

また、経営が安定して運行できるようYKKさんと協力して、社員の通勤等の移動を路線バスでもらい、一般の人もYKKの社員の方も一緒に利用できるものとして実験的に今月7日から南北線を走らせています。YKKの社員300~400人が一日に利用すれば往復で600~800人の利用になります。それに一般の方も加えれば1000人規模の路線ができればいいかなとおもいます。それがもしうまくいけば他の路線でも実施していき、YKKさん以外の企業の方の通勤にも利用してもらえるように働きかけようかなとおもっています。そういうことを進めていくには、何よりも安全運転とダイヤの遵守、そしてやはりサービスを徹底してもらわないと、いくら利用促進をしても、今のようなご指摘をいただいているようであれば実現はしませんので、なにか運転手の待遇ですね、研修のようなものを指摘のあった路線だけではなく、黒部市全体のバス運転手も含めて実施する必要があるかなとおもいます。

次にNさんの樺平パノラマルートの話について、去年1万2千人程で今年も同程度の利用です。これは期間中すべてのツアーが埋まっても2万人程度の制限された人数しか行けないこととなっておりますので、そのうち1万2千人行かれたのであればよかったのかなとおもいます。言われたとおり、まずは地元の方が足を運んであの素晴らしさを感じていただいて、PRしていただければありがたいなとおもいます。シーズンを変えて行っていただくとまた違った魅力を感じていただけるとおもいますので、是非行っていただきたいなとおもいます。もし、地元の方が行きたいというような要望が多いようであれば、これも調査してみないとわかりませんが、地元の体験ツアーみたいなものを行ってもいいかなとおもいます。今は観光客を主に行っておりますが、まずは地元の方が行ってみるということも大事ですので、そういったことも考えていきたいとおもいます。

大島パークゴルフ場については、これは料金の話についてでしょうか。市内と市外で差をつけてくれということでしょうか。大島パークゴルフ場は大変人気がありまして、年間5万人程度に利用いただき、半分程は年間会員の方です。また、雪が降らないかぎり冬もやるということで近隣市町からも来られます。言われたようなことについて議論はしたことはあるのですが、まあそんな差はつけられないだろうということでご理解いただきたいなとおもいます。

最後に生きがいのはなしについて、団塊の世代が75歳を超えるのが2025年ですけども、さっき説明でも触れたのですが、みなさん65歳以上の人数がずっと増えていくとおもっておられる方が多いようですが、実はさっき言いましたとおり2020年以降、今から五年後からは65歳以上の高齢者人口も黒部市は減りはじめます。まずここを認識していただきたいかなと。先程、社人研の2060年の人口を出しましたが、この時には黒部市は高齢者人口が1万人を切っております。高齢者が増えて大変だとテレビでよくやっていますけれど、基本的には都会の問題です。東京都がこれから10年程で高齢者人口が100万人程増え、300万人から400万人になるそうです。黒部市は高齢化が進みきっていますので、これから4~5年後からゆるやかに高齢者人口は下がり始めます。ここが違います。もちろん人口という分母が少なくなるので高齢者率は上がります。ただ人数は減少していきますので、高齢者福祉施設は余ってきます。ですので介護施設を増やせという声も多いですが、その先

も見据えて準備していかなければならないかなとおもっております。

高齢者の生きがいづくりについては、健康寿命を伸ばすということが大事だと考えており、平均寿命と健康寿命には10年差があります。その10年間は病院にかかったり、介護をうけたりということをしてしながら生活をしているという期間であります。それをいろんな活動により生きがいを見つけ健康であるということが何より大事なことなので、この10年間のギャップを少しでも縮めることに努めていかなければいけないかなとおもっており、その部分を次の振興計画にも位置づけなければいけないかなと考えております。

【東布施・Ｙ】

東布施のＹです。自然環境のテーマの中で森林レクリエーションの活用について、私が言いたいことは、合併前は嘉例沢森林公園は黒部市の主要森林で、約200ヘクタールの面積があり、牧場と嘉例沢森林公園とは大型バスが通る道路になっておりまして、昔から下立の小学校の皆さんは、4年生と6年生の時に記念登山をしたと聞いております。また、地元東布施小学校の子どもらも親子で夏のキャンプで宿泊したという経過があります。合併前までは、黒部市のパンフレット・リーフレットにたくさんの森林の緑豊かな風景が見られましたが、合併後は黒部峡谷の方が中心となり、あまり姿が見えないのが最近の状況でなかろうかと、大変残念におもっております。

そこで、森林レクリエーションについて、今後市長がどのように活用・PRをしていくのか市長の所見をお伺いしたいとおもいます。

【市長】

森林レクリエーションの活用についてご指摘をいただいております。嘉例沢森林公園につきましては、利用状況がかなり減っているのが現実であります。昔は親子やいろんな児童クラブ等がキャンプに行ったりしていたのが最近減ってきているというような状況であります。管理の行き届いていないような施設についてはしっかり対応していきたいとおもいます。また、牧場についても来年は全国植樹際のサテライト会場となっております。牧場にも植樹をするという計画もありますので、しっかりと管理、利用の促進を図っていきたいなとおもいます。

【事務局】

これまで、いろいろなご意見をいただきましたが、予定の時間も過ぎております。これをもちまして、意見交換を終了とさせていただきます。

それでは、本日のタウンミーティングの閉会にあたり、本日お集まりいただきました皆様へのお礼も含めまして、堀内市長からご挨拶申し上げます。

【市長】

大変遅くまで長時間ご苦勞さまでございました。先程からお話ししてありますとおり、この総合振興計画につきましては、これまでは黒部市は新市になりましてからは、実効性を重視してまいりました。第2次総合振興計画におきましても、まずは社会情勢を踏まえどんな計画を作るかということが非常に大事でありまして、作ればその計画についてはしっ

かりと実現していきたいというふうに考えております。そのためにはやはり市民の皆さまのご理解、ご支援が大変重要であります。是非みなさんからいろいろな意見をいただきながら、中身の濃い総合振興計画にしていきたいとおもっておりますので、引き続きご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げて、閉会のご挨拶にかえさせていただきます。本日は大変ありがとうございました。

【事務局】

それでは以上で、タウンミーティングを終了いたします。お忘れ物のないよう、また、お気をつけてお帰りいただきたいと存じます。

なお、受付時にお配りいたしましたアンケートを会場出口で回収しております。皆さまのご協力をよろしく願いいたします。本日はどうもありがとうございました。